



木更津市教育委員会 元教育長 西村 堯 選

乱読のセレンディピティ

外山 滋比古 著 ・ 扶桑社文庫
ISBN978-4-594-07558-3
580円 + 税

「セレンディピティ(serendipity)」とは、思いがけないことを発見する能力をいう。

本書、第7章に詳説されている。

“

とくに科学分野で失敗が思わぬ大発見につながったときに使われる

(p.92)

とある。

「乱読のセレンディピティ」とはということか。一言で言えば、「思いがけないことを発見する読書術」のことである。(副題にこうある)

著者によれば、

“

本を読むとき、ふたつの読み方がある

(p.96)

という。

ひとつは、普通の読書で、

“

本にある知識、思想などは、ほぼ、そのまま読者の頭へ移る。それはいわば、物理的である。

(p.97)

これに対して、

“

乱読本は読むものに、化学的影響を与える。全体としてはおもしろくなくても、部分的に化学反応をおこして熱くなる。発見のチャンスがある。

(p.98)

と乱読の効用を述べる。

別の個所で、著者は、こうも述べている。

“

とにかく小さな分野の中にこもらないことだ。広く知の世界を、好奇心にみちびかれて放浪する。人に迷惑がかかるわけではないし、遠慮は無用。十年、二十年と乱読していれば、ちょっとした教養を身につけることは、たいていの人に可能である。

(p.84)

“

いろいろなジャンルの本を、興味にまかせて読んでいく。一つの専門にたてこもっていると、専門バカになるおそれがあるけれども、乱読なら、そうはならない。

(p.85)

さて、賢明なる読者の皆さんは、なぜ、本書を「今月の一冊」で取り上げたか、察しがついたことだろう。

お察しのとおり、近頃の「今月の一冊」欄は、「気まぐれ!」、勝手気ままに、いろいろなジャンルの本を取り上げている。近年、その「気まぐれ」度がひどくなったと、自省している。

そこにもってきて、外山滋比古先生(大先生!)に、「乱読のすすめ」のお墨付きをもらったわけだ。

私は、大いに意を強くし、これからも「気まぐれ読書案内」、私流の「乱読のすすめ」を続けようと決意した。(4月号で取り上げたのは、そういう意味がある。)

「今月の一冊」欄の迷走ぶりに辟易している皆さんには、ぜひ、この「乱読のセレンディピティ」をお読みいただき、「なるほどなあ」と納得していただきたい。

なかなかの名著である。